

Db2 QMF Vision

バージョン 12 リリース 2

Db2 QMF Vision 入門

IBM

Db2 QMF Vision

バージョン 12 リリース 2

Db2 QMF Vision 入門

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、本書の最後にある『特記事項』をお読みください。

本書は、IBM Db2 12 for z/OS (5650-DB2) バージョン 12.1 のフィーチャーである IBM Db2 照会報告書作成プログラム (QMF) Enterprise Edition Advanced バージョン 12 リリース 2 に適用されます。また、本書は、スタンドアロン IBM Db2 for z/OS ツールである IBM Db2 QMF for z/OS (5697-QM2) バージョン 12 リリース 2 にも適用されます。この情報は、新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-8889-03
Db2 QMF Vision
Version 12 Release 2
Getting Started with Db2 QMF Vision

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1982, 2018.

© Rocket Software Inc. 2016, 2018

目次

第 1 章 QMF Vision について	1	APPEND 演算子の追加	29
第 2 章 QMF Vision コンポーネントのインストール	3	フィルター追加	30
QMF Vision のインストール	3	JOIN 演算子の追加	31
QMF Vision の登録	3	PIVOT 演算子の追加	31
ユーザーを LDAP で登録	4	CROSSTAB 演算子の追加	32
IBM Data Service ODBC ドライバーのインストール	4	キューブ演算子の適用	32
QMF Vision のアップグレード	5	集約関数の理解	33
QMF Vision の登録	6	SUM 演算子の追加	33
第 3 章 QMF Vision の管理	7	カテゴリーをデータに追加	34
会社プロファイルの構成	7	データベースの照会	34
表示設定の構成	7	ライブ照会へのアクセス	35
データ・ソースへの接続	7	データ・バックの作成	35
IBM Connections のソーシャル・ネットワークの構成	8	第 10 章 ビジュアル	37
ユーザーの管理	9	分布図での作業	40
ユーザーの登録	9	表の概要	40
ユーザーを LDAP で登録	9	値によるデータのソート	41
新規ユーザーの承認	10	名前によるデータのソート	42
ユーザー統計の表示	10	カスタム例外の作成	42
アラート基準の定義	42	ビジュアルの形式設定	43
第 4 章 プロファイル設定の構成	11	マップの操作	45
アカウント設定の管理	11	第 11 章 ダッシュボード	47
グループの管理	11	ダッシュボード・ガバナンス・ナビゲーター	47
ソース・セキュリティーの表示	12	ダッシュボードを「データ」ページで作成	47
ソーシャル・ネットワークへの接続	12	自動ダッシュボードの生成	47
デフォルトの形式設定	12	ダッシュボードの編集	48
カレンダー設定	13	ビジュアルの見出しタイトルを作成	49
第 5 章 QMF Vision ホーム・ページ	15	図表アクションの適用	49
第 6 章 QMF Vision 用語	17	図表スタイルの適用	50
第 7 章 検出の概要	19	データ変換	51
第 8 章 コンテンツ移行	21	ダッシュボードの公開	51
第 9 章 データの準備	23	ダッシュボードの表示	52
階層	23	ダッシュボードのタグ付け	52
データの操作	23	フィルター・コンテナの適用	52
列の管理	24	フィルターの追加	53
日付列の分割	24	注釈をダッシュボードに追加	53
テキスト列の分割	25	ビジュアルを関連付ける	54
テキスト列のマージ	25	ダッシュボードのリンク	54
カテゴリーをデータに追加	26	ダッシュボード設定	55
数字関数	26	自動ダッシュボードの生成	56
公式の作成	28	第 12 章 プレゼンテーション	57
表の追加	29	プレゼンテーションの作成	57
		プレゼンテーションのコピー	57
		第 13 章 共有とコラボレーション	59
		ダッシュボードの共有	59
		チャット機能	60
		IBM Connections によるダッシュボードの共有	60

第 14 章 スケジューリングの概要	63	高度な計算の実行	69
タスクのスケジューリング	63		
第 15 章 IBM Cognos TM1 の操作	65	第 16 章 IBM Cognos BI サーバーに接	続 71
要素の検索	66		
サブセットの検索および保存	66	第 17 章 IBM Connections の構成	73
ラベルの適用	67	特記事項	75
カスタム・サブセットの作成	67	索引	77
サブセットへの数学関数の追加	67		
要素への数学関数の追加	68		
基本計算の実行	68		

第 1 章 QMF Vision について

QMF Vision には、会社が直感的な方法でデータを分析できるセルフサービス・ダッシュボードが備わっています。この機能により、ユーザーはさまざまなビジネス・ニーズに従って分析を動的に調整することができます。

QMF Vision は、クラウドおよびオンサイトへのデプロイが容易で、必要な保守を最小限に抑えることができるため、オーバーヘッド・コストが減ります。QMF Vision は、組織のビジネス・インテリジェンス (BI) を簡素化し、効率を上げます。また QMF Vision によって、分析を複数ユーザー間で簡単に共有できるようにすることで、ユーザーはコラボレーション機能を使用して迅速に決定を下すことができます。

- 接続: 指定した方法で情報を表示できるため、十分な情報を得た上で決定し、適切な措置を行うことができます。QMF Vision は対話式のビジュアルを提供します。IT サポートなしで報告書およびダッシュボードを作成できます。
- 検出: QMF Vision には、統合 BI 機能の包括的なポートフォリオが用意されています。QMF Vision が、生産性を高めるタイムリーなビジネス情報を提供することによって、組織全体にわたる意思決定が向上します。これは拡張が容易で信頼性の高いソリューションです。
- 共有: 全社的に再利用する目的でダッシュボードを共有できます。リアルタイムのメッセージング・サービスにより、互いにつながることができます。このソリューションはさまざまなモバイル・デバイスでサポートされているため、ダッシュボードと報告書に簡単にアクセスすることができます。

第 2 章 QMF Vision コンポーネントのインストール

以下のトピックでは、QMF Vision および IBM Data Service ODBC ドライバーのインストール手順について説明します。

QMF Vision のインストール

このトピックでは、QMF™ Vision を Windows オペレーティング・システムにインストールする方法について説明します。

このタスクについて

QMF Vision をインストールするには、以下のようになります。

手順

1. QMF Vision インストール・ディレクトリーに移動します。
2. 「QMF Vision」フォルダーを開きます。
3. setup.exe ファイルを実行し、QMF Vision のインストール・ウィザードを起動します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 「**MongoDB bin** ディレクトリー (**MongoDB bin Directory**)」フィールドで既存の MongoDB bin ディレクトリーのパスを指定して、「次へ」をクリックします。

注: Windows MongoDB がシステムにインストールされていない場合は、QMF Vision インストーラー・ウィンドウに表示されているリンクをクリックし、Windows MongoDB インストーラー・セットアップ・ファイルをダウンロードしてください。MongoDB インストールが完了した後、QMF Vision インストールを続行してください。

6. QMF Vision をインストールするディレクトリーを選択して、「次へ」をクリックします。
7. QMF Vision アプリケーション・データを保管するディレクトリーを選択して、「インストール」をクリックします。
8. 「終了」をクリックして、インストール・プロセスを完了します。

QMF Vision の登録

QMF Vision がインストールされた後、ブラウザで自動的に登録ページが開きます。

このタスクについて

アカウントを作成するには、以下のようになります。

手順

1. 「アカウントの作成」ウィンドウで、すべてのフィールドを埋めます。
2. 「登録」をクリックします。 アカウントが作成され、登録されます。

ユーザーを LDAP で登録

管理者は、LDAP ディレクトリーにあるユーザーおよびユーザーのグループを登録することができます。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「ユーザー管理」タブで、「ユーザーを招待 (**Invite User**)」パネルを展開します。
4. 「LDAP」タブで、「SSL を有効にする」をクリックして LDAP ディレクトリーへのセキュア接続を必要に応じて行い、以下のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
LDAP ホスト名	接続したい LDAP ディレクトリーのホスト名を入力します。例えば、ldap.ibm.com のように入力します。
ポート	ポート番号 389 を入力します。
基本 DN	LDAP ディレクトリー・サーバーに対する照会に使用する基本識別名を入力します。例えば、c=com のように入力します。
LDAP パスワード	LDAP 接続のパスワードを入力します。
LDAP ユーザー名	LDAP ディレクトリーへの接続に使用されるユーザー名です。例えば、user@ibm.com のように入力します。

5. 複数のユーザーをロードするには、「ユーザーのロード」をクリックしてから、「ユーザーのインポート」をクリックします。
6. ユーザー・グループをロードする場合は、「グループのロード」をクリックしてから「グループのインポート」をクリックします。

IBM Data Service ODBC ドライバーのインストール

QMF Vision から QMF Data Service に接続するには、IBM Data Service ODBC ドライバーをインストールする必要があります。

このタスクについて

以下の手順に従ってください。

手順

1. QMF Vision インストール・ディレクトリーに移動します。
2. 「QMF Vision」フォルダーを開きます。

3. DS_ODBC_3_1_win64.exe ファイルを実行し、IBM Data Service ODBC ドライバーのインストール・ウィザードを起動します。
4. インストール・ウィザードの言語を選択して、「OK」をクリックします。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「ご使用条件 (License Agreement)」パネルで、ライセンス条項を読んでから「同意する」を選択し、インストールを続行します。
7. インストール・セットのいずれかを選択して、「次へ」をクリックします。最も適したインストール・セットを選択するには、下の表にある情報を参照してください。

インストール・セット	インストールされるコンポーネント
デフォルト	ODBC ドライバーおよびサンプル。
最小	ODBC ドライバーのみ、ローカル・コンピューターにインストールされます。
カスタム	インストールされるフィーチャーをカスタマイズできます。
ネットワーク管理 (Network Admins)	ローカル・マシンへのドライバー定義のインストールのみ行われます。物理ドライバーがローカル側にインストールされることはありません。ネットワーク・インストール・オプションを使用して、既にドライバーが別のネットワーク・マシンにインストールされている必要があります。

8. 宛先フォルダーを指定します。「次へ」をクリックします。
9. ドライバーを 1 つのマシンにインストールするか、またはネットワーク・ロケーションにインストールするかを指定します。「次へ」をクリックします。
10. ドライバーが必要とする環境変数が、すべてのユーザーに有効であるか、またはインストールを実行するユーザーにのみ有効であるかを指定します。「インストール」をクリックします。
11. 「閉じる」をクリックして、インストール・プロセスを完了します。

QMF Vision のアップグレード

最新バージョンの QMF Vision にアップグレードします。

このタスクについて

手順

1. setup_win64.exe をダウンロードします。
2. setup_win64.exe ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
3. 3 ページの『QMF Vision のインストール』トピックのステップ 3 またはステップ 8 に従います。

QMF Vision の登録

QMF Vision がインストールされた後、ブラウザで自動的に登録ページが開きます。

このタスクについて

アカウントを作成するには、以下のようになります。

手順

1. 「アカウントの作成」ウィンドウで、すべてのフィールドを埋めます。
2. 「登録」をクリックします。 アカウントが作成され、登録されます。

第 3 章 QMF Vision の管理

QMF Vision で登録する最初のユーザーは、デフォルトでは管理者です。管理者の登録後、他のユーザーは登録要求を承認のために管理者に送ることができます。管理者は管理設定および会社設定を構成できます。

会社プロフィールの構成

管理者は、ユーザーがログインしたときに表示される最初のページである「ホーム」ページを構成します。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「会社プロフィール (COMPANY PROFILE)」タブに、会社名を入力します。

表示設定の構成

会社のデフォルト・カレンダーを設定し、ダッシュボードの見出しと脚注を設定することができます。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「表示設定」をクリックして、以下のアクションの 1 つ以上を実行します。
 - 望ましい言語を「言語」リストから選択します。管理者は言語を設定し、ユーザーは初めてログインしたときに言語を変更できます。
 - ユーザー・インターフェースにおける背景色、イメージ、およびテキストカラーを選択します。
 - 通貨記号の位置を設定します。
 - 負数のスタイルを設定します。
 - 千単位と小数の区切り文字を設定します。
 - 小数点以下の桁数を設定します。
 - ダッシュボードのヘッダー情報を作成します。
 - ダッシュボードの下に表示する署名を作成します。
 - 会社のロゴをアップロードします。

データ・ソースへの接続

データ・ソースを QMF Vision インターフェース上で構成する必要があります。

QMF Vision はデータベースおよびクラウド・ストレージ・ソースをサポートします。

- QMF Vision 経由でクラウド・ストレージにアクセスするには、ユーザーは関連する Web サイトでクラウド・ストレージを構成する必要があります。ユーザーは、クラウド・ストレージ Web サイトから受け取ったクライアント ID およびクライアント秘密鍵の値を API リストに追加する必要があります。API リストは「設定」ページに表示されます。
- データベース・ソースにアクセスするには、ユーザーはホスト、ポート、ユーザー名、パスワードなどの情報を、QMF Vision ユーザー・インターフェースの「データ」ページに提供する必要があります。この情報は「データ」ページで変更できます。

さらに、「ホーム」ページおよび「データ」ページを通じて CSV ファイルを追加できます。どちらかのページで、ソース・ファイルをドラッグするか、またはファイルを参照して選択することができます。ファイルを介してデータにアクセスするには、「データ」ページで「接続」をクリックし、ソース・ファイルをドラッグしてください。また、「ファイルの選択」ボタンをクリックすることによって、ファイルをアップロードすることもできます。

ODBC システム DSN コネクタに接続するには、QMF Vision ユーザー・インターフェースに提供されたシステム DSN 名が 64 ビット ODBC データ・ソース・アドミニストレーターで構成されたものと一致するようにします。

IBM Connections のソーシャル・ネットワークの構成

管理者は、QMF Vision がサード・パーティー・アプリケーションとして IBM サーバーに接続できるよう、設定を構成します。IBM サーバー管理者は、QMF Vision サーバーに接続できるよう、OAuth 2.0 内部アプリケーションをセットアップします。IBM 接続サーバーがオンプレミスであれば、そのサーバーの URL を IBM の管理者が指定します。「クライアント ID」フィールドと「クライアント秘密鍵」フィールドは、IBM 接続サーバーが指定します。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「API リスト」タブで、以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
サーバー・ベース URL	IBM サーバーの ID です。
クライアント ID	IBM サーバーによって生成された ID です。
クライアント秘密鍵	IBM サーバーによって生成された ID です。

ユーザーの管理

ユーザー管理セクションで、管理者はライセンスの作成および適用、ライセンスのステータスの表示、および非アクティブなユーザーのシステムからの削除を行うことができます。

ユーザーを管理するために、管理者は以下の作業を実行します。

ユーザーの登録

管理者は、ユーザーを 1 人ずつ登録するか、.CSV ファイルを作成して一度に複数のユーザーを登録できます。その .CSV ファイルの最初の列には各ユーザーの E メール・アドレス、2 番目の列にはパスワードが含まれている必要があります。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「ユーザー管理」タブで、登録したいユーザーの E メール・アドレスを入力します。
4. ライセンスを選択して、「登録」をクリックします。
5. オプション: 現在のユーザーを展開して、「表示専用モードの表示」を選択します。
6. オプション: アカウント・オプションをログイン画面に表示するには、「アカウント作成の表示 (**Display the Create Account**)」を選択します。

ユーザーを LDAP で登録

管理者は、LDAP ディレクトリーにあるユーザーおよびユーザーのグループを登録することができます。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「設定」を選択します。
3. 「ユーザー管理」タブで、「ユーザーを招待 (**Invite User**)」パネルを展開します。
4. 「LDAP」タブで、「SSL を有効にする」をクリックして LDAP ディレクトリーへのセキュア接続を必要に応じて行い、以下のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
LDAP ホスト名	接続したい LDAP ディレクトリーのホスト名を入力します。例えば、ldap.ibm.com のように入力します。
ポート	ポート番号 389 を入力します。
基本 DN	LDAP ディレクトリー・サーバーに対する照会に使用する基本識別名を入力します。例えば、c=com のように入力します。
LDAP パスワード	LDAP 接続のパスワードを入力します。

フィールド	アクション
LDAP ユーザー名	LDAP ディレクトリーへの接続に使用されるユーザー名です。例えば、user@ibm.com のように入力します。

- 複数のユーザーをロードするには、「ユーザーのロード」をクリックしてから、「ユーザーのインポート」をクリックします。
- ユーザー・グループをロードする場合は、「グループのロード」をクリックしてから「グループのインポート」をクリックします。

新規ユーザーの承認

管理者は、承認を待っている登録ユーザーのリストを表示することができます。

手順

- QMF Vision にログインします。
- アバターをクリックして、「設定」を選択します。
- 「ユーザー管理」タブで、承認を待っているユーザーすべてのリストを表示します。
- 「保留中のユーザー」パネルを展開して、登録の承認を待っているユーザーを表示します。
- 「承認」をクリックしてください。

ユーザー統計の表示

管理者は、登録済みユーザーを検索し、それらのユーザーのログイン詳細を表示することができます。ユーザーのリストは列名をクリックしてソートできます。

このタスクについて

手順

- QMF Vision にログインします。
- アバターをクリックして、「設定」を選択します。
- 「ユーザー管理」タブで、以下のユーザー詳細を表示します。

オプション	説明
名前	ユーザーの名前。
状況	ユーザーの状況。ログイン・ユーザーは「オンライン」と表示されます。
作成日	ユーザーが登録された日付。
最終ログイン	ユーザーの最終ログインからの経過時間。

第 4 章 プロファイル設定の構成

管理者はアカウントを構成し、グループを作成および管理し、TM1 ソースを設定し、ソーシャル・ネットワーク設定を定義できます。管理者は、他のユーザー用にこれらの構成を実行することもできます。

管理者は以下の作業を行って、ユーザー・プロファイル設定を構成することができます。

アカウント設定の管理

QMF Vision アカウントを作成すると、一時パスワードが入った E メールを受け取ります。QMF Vision のチュートリアルを表示するオプションを選択することもできます。

手順

1. E メールで受け取ったユーザー名とパスワードを使用して QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「プロファイル」を選択します。
3. 「アカウント」タブで、名前を入力します。
4. オプション: ログイン後にチュートリアルが自動的に表示されるようにするには、「ログイン時にチュートリアルを表示」をアクティブ化します。
5. オプション: QMF Vision ユーザー・インターフェースのみが表示されるように自分自身の機能を制限するには、「表示専用モードの表示」をアクティブ化します。このモードでは、ユーザーは編集機能を実行できません。
6. 「パスワードの再設定」をクリックします。
7. 新規パスワードを入力し、それが正しいことを確認します。
8. 「更新」をクリックします。

グループの管理

ユーザーのグループを作成することができます。グループ内の各ユーザーは、グループを表示または編集する許可を持っています。例えば、企業は 2 人の役員を持つことができるため、それらのアカウントに対して 1 つの役員グループを作成できます。デフォルトでは、QMF Vision には「管理者」および「すべてのユーザー」グループがあります。

手順

1. QMF Vision にログインし、アバターをクリックします。
2. 「プロファイル」を選択し、「グループ」をクリックします。
3. 「追加」をクリックし、以下のフィールドに入力します。

フィールド	アクション
名前	グループの名前を入力します。 <u>例えば、「Executive」と入力します。</u>
説明	このグループの分かりやすい説明を入力します。

- 「追加」をクリックします。すべての登録済みユーザーのリストが表示されます。 CEO や CFO などのユーザーを「Executive」グループに追加します。
- 許可を割り当てたいユーザーを選択します。編集許可を持つユーザーは、グループに他のユーザーを追加することができます。
- ドロップダウン・リストから適切な許可を選択します。
- 「追加」をクリックします。
- オプション: ユーザーをグループから削除するには、「削除」アイコンをクリックし、次に削除する名前の横にある「削除」アイコンをクリックします。

関連資料:

59 ページの『第 13 章 共有とコラボレーション』

他のユーザーとチャットし、ダッシュボード、ソース、および照会を共有することができます。

ソース・セキュリティの表示

ユーザーが aTM1 ダッシュボードを共有する場合、サーバー名、TM1 サーバーの URL、およびユーザーのログイン資格情報は「ソース・セキュリティ」タブに表示されます。

ソーシャル・ネットワークへの接続

ユーザーは、管理者によって構成されている IBM Connections に接続できます。

始める前に

IBM Connections が「設定」ページの「API リスト (API LIST)」タブで構成されていることを確認します。

このタスクについて

手順

- QMF Vision にログインして、アバターをクリックします。
- 「プロフィール」を選択して、「ソーシャル・ネットワーク」をクリックします。
- 「接続」をクリックします。

デフォルトの形式設定

ユーザーは、数値、言語、および通貨についてのデフォルト設定を構成できます。

このタスクについて

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. アバターをクリックして、「プロフィール」を選択して「形式設定」をクリックします。
3. オプション: 「優先言語の選択」リストから言語を選択します。
4. オプション: 「優先日付フォーマットの選択」リストから日付形式を選択します。
5. オプション: 「通貨」リストから、通貨を選択します。
6. オプション: 通貨の接頭部、小数部、負の数の設定を選択します。
7. オプション: リストから数字桁数および千の位の区切り文字を選択します。

カレンダー設定

管理者は、いずれかの事前定義カレンダーを会社のデフォルト・カレンダーとして設定したり、カスタム・カレンダーを作成したりできます。カレンダーのデフォルト時間枠は 1 月から 12 月までです。

このタスクについて

手順

1. Rocket Discover にログインします。
2. 自分のアバターをクリックして「設定」を選択します。
3. 「カレンダー」をクリックし、事前定義カレンダーを「組織カレンダー (Organization Calendar)」ドロップダウンから選択し、「デフォルト・カレンダー」をクリックします。
4. 1 年の最初の月を選択し、カレンダーの開始日と終了日を選びます。
5. 最初の曜日を選択します。
6. オプション: 新規カレンダーを作成するには、「カスタム・カレンダーの作成」を選択して次のウィンドウで詳細を入力します。

第 5 章 QMF Vision ホーム・ページ

「ホーム」ページは、ログイン時に表示される最初のページです。ホーム・ページから、自分が作成したすべてのダッシュボード、および自分と共有されたすべてのダッシュボードを表示できます。質問アイコンをクリックすることによって、対話式 e-learning モジュールおよび文書サポートを表示することもできます。

以下のセクションでは、「ホーム」ページのレイアウトについて説明します。

オプション	説明
「検出」ページ	ビジュアルの開発と形式設定、および新規データ・ソースのダッシュボードへの関連付けを行います。ダッシュボードおよびプレゼンテーションを検索します。
「データ」ページ	照会の表示、変更、検索、および削除を行います。
共有ページ	ダッシュボードの共有、ビューの設定、および許可の編集を行います。データ・ソースとダッシュボードのコピーを作成します。データ、ダッシュボード、およびソースを検索します。
検索	ダッシュボードおよびプレゼンテーションを検索します。追加のフィルターを選択することによって検索を絞り込むことができます。すべての検索を保存できます。この機能はユーザー・インターフェース内のすべてのページで利用できます。
検索バー	キーワード、用語、および名前のグローバル検索を実行します。
取り消し	最後に実行したステップを取り消します。
再実行	実行した最後のステップを再実行します。
削除済み項目	項目の復元、または永続的削除を行います。
+ダッシュボード	ダッシュボードを作成します。
+プレゼンテーション	選択されているすべてのダッシュボードのプレゼンテーションを作成します。
詳細 (More)	選択すると、削除、インポート、エクスポート、コピーのオプションが表示されます。
ツールボックス	ビジュアルへの設定の適用、チャットによる他のユーザーとのコラボレーション、およびダッシュボード・テンプレートの選択を行います。
フィルター	「ダッシュボード」、「プレゼンテーション」、「スケジュール済み」、「お気に入り」、「公開済み」の各オプションを選択します。

オプション	説明
すべて表示	使用可能なすべてのダッシュボードおよびプレゼンテーションを表示します。
グリッド表示の共有ビュー	ダッシュボードをグリッドで配置します。
リスト表示の共有ビュー	ダッシュボードをリストで配置します。
ソート	ダッシュボードを名前ですべてソートします。

第 6 章 QMF Vision 用語

このトピックは、Rocket Discover で使用される用語を理解するために役立ちます。

用語	説明
平均	測定値で使用可能なすべての値の平均を表示します。例えば、この関数がコスト測定値に適用されると、製品の平均コストが表示されます。
カウント	測定値の出現回数を表示します。例えば、国ごとのトランザクション数を表示します。
最大	すべての測定値の最大値を表示します。
最小	すべての測定値の最小値を表示します。
測定値とコンテキスト	測定値は、利益、売上、ページ・ビューなどの測定可能なデータからなります。コンテキストは、測定値を分析するための基礎を提供します。例えば、カテゴリー、国、地域などがコンテキストです。
照会	ソースをアクセスすることによってデータを操作するために使用します。合成されたデータを表示するには、データ・ソースから列を選択し、それらに操作を適用する必要があります。
TABLE	これは「データ」ページで複数の表を選択できるようにします。

第 7 章 検出の概要

「検出」ページには、ビジュアルを使用してさまざまな作業を実行できるビューが表示されます。

ダッシュボードでは、以下の作業を実行できます。

- ビジュアルの上にマウス・カーソルを移動させることによって、そのビジュアルを削除します。
- 「移動」オプションを使用してビジュアルの配置をサイズ変更します。
- ビジュアルを同期化します。
- プレゼンテーションを作成します。
- ダッシュボードを開いた後で「詳細 (MORE)」メニューをクリックして、ダッシュボードを PDF として出力します。レイアウトおよび用紙サイズを選択することができます。
- ダッシュボードを変更したり、削除ボタンをクリックしてダッシュボードを削除したりします。
- ビジュアルを「図表タイプ」パネルからダッシュボードにドラッグして追加します。
- テンプレートを選択します。グリッドの数は、ダッシュボード上のビジュアル数を示します。ダッシュボードを開いて「テンプレート」アイコンをクリックすると、カスタム・テンプレートを作成することができます。新規テンプレートは現在のダッシュボードと同じ形式になります。
- 見出しと脚注をダッシュボードに追加します。
- データ・ソースに接続します。
- 「詳細 (MORE)」メニューの「ランディング・ページの有効化」を選択することによって、ダッシュボードをランディング・ページとして設定します。
- メニューの「ソーシャル・ネットワーク」の様々なソーシャル・メディア・オプションを選択することによってダッシュボードを共有します。

第 8 章 コンテンツ移行

ユーザーは、複数のダッシュボードとそれらのダッシュボードに関連付けられたソースを含むパッケージを作成できます。このパッケージは、QMF Vision を実行中の別の環境にインポートできます。この環境にアクセスするユーザーは、インポートされるデータベース・ソースへのアクセス権限を持つ必要があります。ユーザーは「共有」ページでパッケージを検索してパッケージを削除することができます。

このタスクについて

ダッシュボードをパッケージ化するには、以下を実行します。

1. 「ホーム」ページで、「詳細 (MORE)」をクリックします。
2. グループ化するダッシュボードを選択し、「インポート」または「エクスポート」ボタンのいずれかをクリックします。
3. インポートするには、ファイルを選択するか、ユーザー・インターフェースにファイルをドラッグします。
4. エクスポートするには、パッケージの名前および説明を入力して「保存」をクリックします。

第 9 章 データの準備

データの準備は、データを視覚化する前に、1 つまたは複数の結果セットを操作、変換、およびクリーンアップするプロセスです。データの準備のための主な領域は「データ」ページです。データ準備機能にアクセスするには、表の「照会の作成」機能または照会の「照会の表示」機能を使用します。

「ホーム」ページ、「データ」ページ、またはツールボックスを介してデータに接続できます。データには、データベースから直接アクセスすることもできます。どちらかのページで、ソース・ファイルをドラッグするか、またはファイルを参照して選択することができます。ファイルを介してデータにアクセスするには、「データ」ページで「接続」をクリックし、ソース・ファイルをドラッグしてください。また、ファイルをアップロードすることもできます。データ・ソースの構成詳細については、7 ページの『データ・ソースへの接続』を参照してください。QMF Vision は、ユーザーがさらに分析を行うためにデータの操作を支援するための機能を提供します。

階層

コンテキスト・リスト内のデータは、意味を持つ構造に編成できます。QMF Vision を使用して自動階層を生成することができ、またカスタム階層を作成することもできます。ユーザーがデータ・ソースに接続するとき、QMF Vision は記述フィールド、値、およびカーディナリティーを識別します。したがって、データは固有レコードの数と一緒にコンテキストおよび測定値に分割されます。コンテキストは、データをレポートで表示するのに役立つ階層にさらに分類できます。例えば、国、地域、および市区町村を含む階層の場合、国から地域、さらに選択された国または地域内の市区町村へとドリルダウンする機能がビューアーに提供されます。

データに素早くナビゲートするには、2 つ以上のコンテキストを階層に結合するか、スマート階層を自動的に生成します。「データ」ページの「ツールボックス」メニューをクリックすることによって新しい階層を作成できます。

データの操作

ファイルまたはサーバー接続からアップロードするデータは、変更なしで表示されます。データを分析するには、QMF Vision に用意されている操作を適用します。

照会の処理

「データ」ページに、作成または共有している照会およびデータ・ソースがすべてリストされています。デフォルトでは、照会には、データのソースであるファイルまたはデータベースと同じ名前が付けられます。照会をクリックしたとき、「照会の表示」ボタンは照会を実行してデータを表に表示し、データ準備機能へのアクセス権限を提供します。照会の名前を変更することもできます。「ダッシュボードの作成」はデータの準備領域をバイパスし、「検出」ページに直接移動します。照会内のデータを既に準備している場合はこのオプションを使用します。

照会についての情報は、使用されたデータ・ソース、照会内のノード数 (複数の結果を追加することによって以前準備された場合)、および使用されているダッシュボードの数として表示されます。

ソースはアクセスするデータ・ソースに対応していて、照会はビジュアルに表示されるデータを表します。「データ」ページで照会を削除、表示、および複製することができます。また、演算 (JOIN、PIVOT、SUM など) を適用でき、照会およびダッシュボードを作成できます。

データを変換するときに実行できる操作は以下のとおりです。

- TABLE の追加
- FILTER の追加
- APPEND 演算の追加
- JOIN 演算の追加
- PIVOT の追加
- SUM の追加
- CUBE の追加

列

列のデータに対して以下の機能を実行できます。

- 自動階層を生成して、データを編成します。
- 列をアルファベット順にソートして、コンテキストと測定値、その後に公式を表示します。
- カテゴリーを作成して、データを論理的にグループ化します。
- シフト・キーを使用して、PIVOT 演算の対象として複数の列を選択します。

列の管理

ユーザーは「データ」ページの列の複数の関数を実行できます。

•

「データ」ページで照会を開くと、行および列の総数、最終更新状況がページの右上に表示されています。ダウンロード・アイコンをクリックして照会をダウンロードできます。

- 様々な列をマージして単一系列を形成できます。
- 「データ」ページの「データ・マップ」アイコンを展開または縮小してデータ準備を表示します。
- 「公式の作成」ボックスに公式を入力して列の計算を実行します。
- 列の「ソート」アイコンをクリックして列をソートします。
- 「詳細 (More)」をクリックしてから「再配列」オプションを選択して列を再配列します。

日付列の分割

日付列は、年、月、日、および時刻をそれぞれ表す複数の列に分割できます。

始める前に

このタスクについて

手順

1. 「データ」ページにナビゲートして照会をクリックし、「照会の表示」をクリックします。その照会が「データ」ページに表示されます。
2. 分割する日付列をクリックし、データ・タイプとディメンション (または測定値) をドロップダウンから選択します。
3. 列の上にマウスを移動して、「詳細 (More)」メニューを選択します。サブメニューが表示されます。
4. 「日付の分割」をクリックします。「ツールボックス」にメニューが表示され、日付の構成要素を表示するオプションが示されます。そのオプションから「年」、「月」、「日」、または「時刻」を選択します。
5. 時刻の出力形式を選択します。例えば、「HH:MM PM」を選択してください。

テキスト列の分割

テキスト値や英数字値を持つ列は 2 つの列に分割できます。例えば、従業員名の列は姓と名の列に分割できます。

始める前に

このタスクについて

手順

1. 「共有」ページにナビゲートして「照会の表示」をクリックします。照会が「データ」ページに表示されます。
2. 分割する列をクリックします。
3. テキスト列を分割するには、「分割」をクリックします。
4. 数字とテキストが含まれている列を分割するには、「数字の分割 (Split Number)」をクリックします。列リストの末尾に新規の列が追加されます。

テキスト列のマージ

テキスト値を持つ様々な列をマージして 1 つの列を形成できます。例えば、名の列と姓の列をマージして 1 つの従業員名列を形成できます。

始める前に

このタスクについて

手順

1. 「共有」ページにナビゲートして「照会の表示」をクリックします。照会が「データ」ページに表示されます。
2. テキスト値を持つ列を選択して「詳細 (More)」 > 「テキスト関数」 > 「マージ」をクリックします。

3. 「ツールボックス」でドロップダウンから区切り文字を選択し、マージする列を追加します。マージされた列が列リストの末尾に表示されます。この列の名前は変更できます。

カテゴリーをデータに追加

データをカテゴリー化してデータ・ソースの記述フィールドを作成できます。カテゴリーを定義して、「データ」ページでデータをグループ化します。この例では、Go_Sales_Discover ファイルにあるデータをグループ化するために、「Profit」カテゴリーと「Loss」カテゴリーを作成します。

始める前に

照会を開いて、データ・ソースが「データ」ページに表示されていることを確認してください。

手順

1. 「データ」ページで、カテゴリーを作成する対象の列を選択します。この例では、「合計コスト (Total Cost)」が選択されています。
2. ツールボックスで、「カテゴリー化」をクリックします。または、照会領域の下の「カテゴリー化」をクリックすることもできます。「ツールボックス」にカテゴリー化オプションが表示されます。
3. デフォルトのカテゴリー名を編集します。例えば、「Profit」です。
4. カテゴリーを展開して、フィルター基準を追加します。
5. フィルター基準の名前 (例えば「Profit more than 100」) を入力します。デフォルトで、システムは自動的に基準の名前を生成します。
6. フィルターを展開して、利益を計算するための関数を定義します。
7. ドロップダウン・リストから、条件付き演算を選択します。例えば、「より大きい」です。
8. 利益を測定する値 (例えば「100」) を入力します。カテゴリー「Profit more than 100」が、100 より大きい値すべてに適用されるフィルターと一緒に表示されます。
9. 「カテゴリーの適用」を選択します。
10. オプション:

追加フィルターを作成することによって追加のカテゴリーを生成できます

数字関数

関数を使用して、測定値およびディメンションで計算を実行します。

このタスクについて

「データ」ページで「公式の作成」をクリックして、公式バーを表示します。関数の名前を入力すると、関数の構文が自動的に表示されます。

下表に関数の説明があります。

関数	説明
ABS(NUMBER)	数値の絶対値を返します。
ACOS(NUMBER)	数値の逆コサインを計算し、0 から π のラジアンで角度を返します。例えば、ACOS(1/SQRT(2)) は π を返します。
CHAR(NUMBER)	特定の数値に対応する ANSI 文字を返します。例えば、CHAR(65) は A を返します。
ASIN(NUMBER)	数値の逆サインを計算し、 $-\pi/2$ から $\pi/2$ の間の角度を返します。
ATAN(NUMBER)	数値の逆タンジェントを計算し、 $-\pi/2$ から $\pi/2$ のラジアンで角度を返します。例えば、ATAN(1) は $\pi/4$ を返します。
CEILING(NUMBER)	正数を切り上げ、負数を切り捨てます。例えば、CEILING(-9.7) は -9 を返します。
COS(RADIAN)	角度のコサインを返します。例えば、COS(.785398163) は 707106781 を返します。
MONTHDAYS(MONTHS, YEARS)	指定された年の当該月の日数を返します。例えば、MONTHDAYS(12,2014) は 31 を返します。
OR(BOOLEAN,BOOLEAN)	引数を検証し、いずれかの条件が該当する場合は TRUE を返します。それ以外の場合は FALSE を返します。例えば、式 (Price = 345.6 OR (Price >100, Price < 300)) は TRUE を返します。
AND(BOOLEAN,BOOLEAN)	引数を検証し、すべての条件に該当する場合は TRUE を返します。それ以外の場合は FALSE を返します。例えば、式 (Price = 345.6 AND(Price >100, Price <300)) は TRUE を返します。
NOT(BOOLEAN)	ユーザーが指定した値とは反対の値を返します。
FIND(TEXT,TEXT,INTEGER)	テキスト・ストリング内の文字の位置を返します。この関数は大/小文字を区別します。FIND(n,Canada,1) は 3 を返します。INTEGER は、値を指定しないと 1 になります。
FLOOR(NUMBER)	正数を切り捨て、負数を切り上げます。例えば、FLOOR(-9.89) は値 -10 を返します。
TEXT(DATE_TIME,DATE_FORMAT)	値の形式をテキストに変換します。例えば、TEXT(1-Jan-06,'DDMMYYYY') は 01012016 になります。
IF(BOOLEAN,VAR,VAR)	条件が満たされているかどうかを検査し、条件が TRUE であれば一方の値を返し、条件が FALSE であればもう一方の値を返します。例えば、IF(Gross Profit >100, 'bigger', 'smaller') のように使用します。

関数	説明
ISNULL(VAR)	列に値があるかどうかを検査します。列に値がある場合は「1」を返し、値がない場合は「0」を返します。
LN(NUMBER)	数値の自然アルゴリズムを返します。例えば、LN(10) は 2.30 を返します。
LOG(NUMBER)	数値の対数を返します。
NOW()	現在の日時を返します。
ROUND(NUMBER,INTEGER)	数値を指定された桁数で四捨五入します。例えば、Round(123.456,2) は 123.46 を返します。
SIN(RADIAN)	指定された角度のサインをラジアンで返します。例えば、SIN(RADIANS(-30)) のように使用します。
SQRT(UNSIGNED)	数値の平方根を返します。
LEFT(TEXT,INTEGER)	テキスト・ストリングの先頭から、指定された数の文字を返します。例えば、LEFT(Chicago,3) は「Chi」を返します。
LEN(TEXT)	テキスト・ストリング内の文字数を返します。例えば、LEN(Chicago) は 7 を返します。
RIGHT(TEXT,INTEGER)	テキスト・ストリングの末尾から、指定された数の文字を返します。例えば、RIGHT(Chicago, 3) は「ago」を返します。
MID(TEXT,INTEGER,INTEGER)	テキスト・ストリングの途中にある文字を返します。例えば、国が「USA」である場合、MID(USA,2,2) 関数は「SA」を返します。
TAN(RADIAN)	角度のタンジェントを返します。
LOWER(TEXT)	テキストを小文字に変換します。
UPPER(TEXT)	テキストを大文字に変換します。
TRUNC(NUMBER,INTEGER)	小数部の除去により、数値を切り捨てて整数にします。例えば、Trunc(2.345,2) は数値を切り捨てて 2.34 にします。
DATE(YEAR,MONTH,DAY)	日付を返します。例えば、DATE(2013,4,29) は 2013-04-29 を返します。

公式の作成

数学関数を実行するには、測定値に加算、減算、乗算、除算関数を適用します。複雑な関数を実行するためには、関数を括弧で囲んでください。

始める前に

このタスクについて

数学関数について詳しくは、26 ページの『数字関数』を参照してください。

手順

1. 照会領域で、「公式の作成」をクリックします。新しい公式列が、使用可能なすべての列のリストに追加されます。
2. 公式列を選択し、「ツールボックス」のメニューでその公式に関連する名前を付けます。例えば、「Profit」です。
3. 「ツールボックス」メニューのドロップダウンから、データ・タイプを選択します。例えば、「整数」を選択します。
4. 「ツールボックス」メニューのドロップダウンから、ディメンションまたは測定値のオプションを選択します。
5. 公式列を選択し、公式を選択または入力します。
6. 「適用」をクリックします。

表の追加

2 つのデータ・ソースを追加すれば、新しい表を作成できます。今回の例では、ソースは `Go_Sales_Discover.CSV` および `Go_Discover_revenue.CSV` です。2 つのデータ・ソースの間にある共通列は「ID」です。

始める前に

表を作成する前提条件は、同じ名前の列が両方のデータ・ソースにあることです。

このタスクについて

手順

1. 「データ」ページでソースを選択し、「表示」をクリックします。照会エディターが表示されます。
2. 「追加」アイコンまたは「表」をクリックします。データベースで使用できるソースがすべて登録されているドロップダウン・リストが表示されます。
3. ソースの横にあるプラス・アイコンをクリックしてソースを選択します。`Go_Discover_revenue.CSV` で使用できる列が照会域の下に表示されます。

注: 検索バーでソース名を検索できます。

4. 「ツールボックス」で表の名前を変更できます。
5. 「ダッシュボードの作成」をクリックします。結合された表が含まれているダッシュボードが表示されます。

APPEND 演算子の追加

APPEND 演算は、複数のソースにあるデータを結合します。同タイプのデータを結合する必要がある場合に役立ちます。追加されるソースは、メイン・ソースと同じ列構造になっている必要があります。この例では、`Go_Discover_Sales_2013.CSV` と `Go_Discover_Sales_2014.CSV` を追加します。どちらのソースにも同じ列がありません。結果の照会には、2013 年と 2014 年の結合された売上が示されます。

始める前に

「データ」ページで、いずれかの CSV 照会を選択し、「照会の表示」をクリックします。TABLE を選択し、他の CSV ファイルを選択します。

手順

1. **APPEND** 演算をクリックします。選択された 2 つの表が自動的にリンクされます。
2. APPEND 演算の名前をツールボックスに入力します。これは、特に複雑な照会を扱う場合、その APPEND 演算の目的を識別するために役立ちます。この例では、演算の名前は「Sales by region」です。
3. 追加する列を「ツールボックス」内から選択します。照会領域の下にある領域に、結合されたデータが表示されます。
4. 「ダッシュボードの作成」をクリックします。適用された APPEND 演算子が入ったダッシュボードが表示されます。

フィルターの追加

フィルターをデータに追加して、選択された条件に基づいてコンテンツを表示することができます。この操作は、特定のデータ・セットから行を除去します。この例では、数量ベースのフィルターを `Go_Sales_Discover_product_sales.CSV` の売上データに追加します。「フィルター」オプション・タイプでは、ダッシュボードを更新するためにユーザーがコンテンツを選択できる対話式コントロールが提供されます。

始める前に

照会を開いていることを確認します。

このタスクについて

手順

1. ソースを選択して、「フィルター」をクリックします。「フィルター」操作が照会領域に追加されます。
2. 「フィルター」操作を選択し、意味のある名前になるようデフォルト名を編集します。これは、フィルター操作を行う理由を明示し、複数のフィルターを区別するために役立ちます。この例では、フィルターは数量に適用されます。
3. ソースを選択して、「フィルターの追加」をクリックします。複数のドロップダウン・リストが表示されます。最初のドロップダウンは、フィルターする列を指定するためのものです。2 番目のドロップダウン・リストには、条件演算子（「より小さい」、「より大きい」、「次の指定ではない」、「次の指定の間にある」など）が入っています。最後のフィールドには、フィルターの値を入力します。例えば、「20 より小さい数量」と選択できます。
4. 基準を選択して入力します。例えば、「20 より多い数量」とします。結果の列が照会領域の下に表示されます。この例では、数量が 20 を超えるすべての製品が表示されます。
5. 「ダッシュボードの作成」をクリックします。

- オプション: フィルター・オブジェクトで使用するラジオ・ボタンは、必要に応じてドロップダウン・リストに変更できます。フィルターの右隅にマウス・カーソルを合わせ、垂直の省略符号をクリックします。「ドロップダウン・フィルター (Drop-down Filter)」を選択します。

JOIN 演算子の追加

この演算子は行と列を結合します。これは、データが論理的に関連している場合に役立ちます。例えば、この操作を使用して、トランザクション・レコードを顧客詳細と結合できます。場合により、データは部分的にのみ相互に関連していることがあります。どの不一致行がまだ組み込まれているかを判別するために、ベン図表 (結合タイプ) を使用することができます。INNER JOIN 操作は、同じキー値が両方の表に存在する場合に行を返します。LEFT JOIN 操作は、右の表に一致する行がない場合でも、左の表からすべての行を返します。RIGHT JOIN 操作は、左の表に一致する行がない場合でも、右の表からすべての行を返します。

このタスクについて

次の例では、LEFT OUTER JOIN が Go_Sales_Discover1.CSV および product.CSV に適用されます。

手順

- 「結合 (JOIN)」演算子をクリックします。
- JOIN 演算子の名前を入力します。これは、複数の JOIN 演算子を区別するために役立ちます。この例では、演算の名前は「Product sales」です。
- ツールボックスで、CSV ソースおよび列を「ノード」ドロップダウン・リストから選択します。この例では、ソースは Go_Sales_Discover および product です。CSV ファイルの中の列がすべて取り込まれます。両方のソースにある「ProductName」列が突き合わされ、結果の列が照会領域の下に表示されません。
- JOIN 演算に適用する条件を選択します。例えば、「Unit Sale Price = 10」です。
- 「ダッシュボードの作成」をクリックします。適用された JOIN 演算が入ったダッシュボードが表示されます。

PIVOT 演算子の追加

PIVOT 演算は、クロス集計フォーマットのデータをフラット表に変換します。測定値または列に関するデータに対してピボット処理を行うことができます。

始める前に

照会を開いて、データ・ソースが「データ」ページに表示されていることを確認してください。

手順

- PIVOT 演算をクリックします。システムは自動的に、測定値をグループ化して多値ピボット・グループを作成します。必要であれば、そのグループに測定値を追加できます。

2. オプション: ドロップダウン・リストから「すべての測定値」または「すべての列」を選択します。
3. 意味のある名前を「ピボット」列に入力します。
4. オプション: 新しいピボット・グループを作成するには、+ アイコンをクリックします。
5. グループを展開して、ピボット値を追加します。
6. 「ダッシュボードの作成」をクリックします。

CROSSTAB 演算子の追加

クロス集計演算では、複数の表を結合して 1 つの新規表を形成することによってデータを変換します。

始める前に

照会を開いて、データ・ソースが「データ」ページに表示されていることを確認してください。

手順

1. **+CROSSTAB** 演算をクリックします。システムは自動的に測定値をグループ化して多値クロス集計を作成します。
2. 「ツールボックス」に、意味のある新規クロス集計名を入力します。
3. オプション: 垂直および水平の方向にあるシェブロンをクリックして、ピボット・オプションをアクティブ化します。
4. オプション: シェブロン・アイコンをクリックして合計や平均を計算します。
5. 「ダッシュボードの作成」をクリックします。

キューブ演算子の適用

キューブ演算子によって、ユーザーは IBM Cognos TM1 サーバーが直接消費するデータを準備することができます。

始める前に

IBM Cognos TM1 サーバーに接続していること、および照会が「データ」ページに表示されていることを確認します。

このタスクについて

手順

1. 「キューブ (**CUBE**)」演算子をクリックし、「ツールボックス」内で名前変更します。
2. ドロップダウン・リストから TM1 ソースを選択します。
3. 「出力接続」ドロップダウン・リストから IBM Cognos TM1 サーバーを選択します。
4. 「キューブ (**CUBE**)」をクリックします。システムは「ツールボックス」内のディメンションおよび測定値にデータを設定します。

- 出力リストからサーバーを選択し、「送信 (SEND)」をクリックしてデータを TM1 サーバーに送信します。

集約関数の理解

QMF Vision には、値セットに対して数学関数を適用する機能が備わっています。数学関数を適用できるのは、「データ」ページにおいて「ツールボックス」で SUM 演算子を選択した場合です。

QMF Vision では以下の集約関数がサポートされています。

合計 これは、同一ディメンションを持つ行同士を結合して、対応する値を追加します。これにより、照会対象の列や行の数が減ります。

平均 これは、データに含まれるすべての数値の平均を計算します。

最小 これは、最小測定値を計算します。

最大 これは、最大測定値を計算します。

カウント

これは、測定値またはディメンションにおける行の数を計算します。

SUM 演算子の追加

大きなデータを合計するには、集約関数が役立ちます。列に反復フィールドがある場合、この関数はそれらのフィールドとその対応する値とを結合するため、照会するデータのサイズが小さくなります。集約関数は

COUNT、SUM、AVERAGE、MINIMUM、および MAXIMUM サブ関数から構成されます。この例では、さまざまな集約関数が Go_sales_Discover.CSV ファイルに適用されています。

始める前に

照会を開いて、データ・ソースが「データ」ページに表示されていることを確認してください。

手順

- 「合計 (SUM)」をクリックします。列領域に、「ProductName」コンテキストの集約値がリストされます。
- 「数量 (Quantity)」列をクリックします。デフォルトで、ツールボックスのメニューでは SUM 関数が選択されていて、対応する製品における数量の集約が表示されています。
- 照会領域で「SUM」をクリックしてから、サブ関数を適用する対象の列を選択します。この例では、製品の数量の平均が計算されます。
- 「ツールボックス」のメニューで「平均」を選択します。製品ごとの平均数量が入った新しい列が、照会領域の下に表示されます。

カテゴリーをデータに追加

データをカテゴリー化してデータ・ソースの記述フィールドを作成できます。カテゴリーを定義して、「データ」ページでデータをグループ化します。この例では、Go_Sales_Discover ファイルにあるデータをグループ化するために、「Profit」カテゴリーと「Loss」カテゴリーを作成します。

始める前に

照会を開いて、データ・ソースが「データ」ページに表示されていることを確認してください。

手順

1. 「データ」ページで、カテゴリーを作成する対象の列を選択します。この例では、「合計コスト (Total Cost)」が選択されています。
2. ツールボックスで、「カテゴリー化」をクリックします。または、照会領域の下の「カテゴリー化」をクリックすることもできます。「ツールボックス」にカテゴリー化オプションが表示されます。
3. デフォルトのカテゴリー名を編集します。例えば、「Profit」です。
4. カテゴリーを展開して、フィルター基準を追加します。
5. フィルター基準の名前 (例えば「Profit more than 100」) を入力します。デフォルトで、システムは自動的に基準の名前を生成します。
6. フィルターを展開して、利益を計算するための関数を定義します。
7. ドロップダウン・リストから、条件付き演算を選択します。例えば、「より大きい」です。
8. 利益を測定する値 (例えば「100」) を入力します。カテゴリー「Profit more than 100」が、100 より大きい値すべてに適用されるフィルターと一緒に表示されます。
9. 「カテゴリーの適用」を選択します。
10. オプション:

追加フィルターを作成することによって追加のカテゴリーを生成できます

データベースの照会

データベース内の先頭の 1000 の行および列に対して、または表全体に対して照会を行うことができます。SQL を展開すると、バックグラウンドで実行されている照会の SQL ステートメントが表示されます。

手順

データベース照会を作成し、以下のいずれかのステップを実行します。

- 表全体に対して照会を実行するには、「実行」をクリックします。
- 先頭 1000 行および 1000 列に対して照会を実行するには、「先頭 **1000 (Top 1000)**」をクリックします。
- 照会の実行を停止するには、「停止」をクリックします。ダッシュボードには部分データが表示されます。

- SQL 照会をカスタマイズするには、「カスタマイズ」を選択します。

ライブ照会へのアクセス

ユーザーはライブ照会機能を使用することで、データベースに含まれるデータに直接アクセスできます。通常の照会では、データ変更要求はいずれもデータ・エンジンを使用して処理されます。

データベースに含まれるデータに直接アクセスするには、「データ」ページで「ライブ照会」オプションを選択します。

データ・パックの作成

データ・パックは、リレーショナル・データベース管理システム (RDMS) 内の他のデータ・ソース表にリンクすることによって作成されたソース表の論理的な関連付けです。この表は 1 つのデータ・ソース表として機能します。データ・パックから照会およびダッシュボードを作成できます。

始める前に

データ・ソースに接続していることを確認します。ソースへの接続について詳しくは、23 ページの『第 9 章 データの準備』を参照してください。

このタスクについて

この例で、データ・パックは SQL サーバー・データ・ソースの「Suppliers」表と「Products」表にリンクすることによって作成されています。

手順

1. 「データ」ページにナビゲートして、「**SQL サーバー (SQL Server)**」をクリックします。データ・ソース内の表のリストが表示されます。
2. いずれかの表 (例えば「Suppliers」表) の横にある「データ・パックの作成 (**Create Data pack**)」をクリックします。「Suppliers」表が Entity Relationship Diagram (ERD) として表示されます。
3. このデータ・パックの名前を入力します。この例では、データ・パックは「**Order details**」に名前変更されています。
4. 「データ」ページで、選択した表とリンクする表の横にある正符号 (+) をクリックします。この例では、ツールボックスで「Products」表が選択されています。
5. ツールボックスで、「追加」をクリックしてリンク基準を表示します。
6. ツールボックスで、ドロップダウン・リストから主キーを選択します。主キーの横には「キー」アイコンが表示されています。この例では、「Product」表の「SupplierID」が選択されています。
7. 選択した表のすべてのレコードを含めるには、「すべてを含む」をクリックします。このオプションを選択しない場合は、リンク基準を満たす値のみがデータ・パックに組み込まれます。
8. ツールボックスで、メニューからもう一方の表を選択します。この例では、「Suppliers」が選択されています。

9. もう一方の表の外部キーを選択します。この例では、「SupplierID」が選択されています。
10. ステップ 7 を繰り返して「完了」をクリックします。

次のタスク

「データ」ページでデータ・パックを編集および削除することができます。データ・パックから照会とダッシュボードを作成するには、47 ページの『第 11 章 ダッシュボード』を参照してください

第 10 章 ビジュアル

適切な形式でデータを表示するには、ビジュアルを作成します。

ビジュアルは、棒グラフ、ヒート・マップ、クロス集計などのグラフィック形式でデータを表示します。ビジュアルをカスタマイズするには、色、軸の方向、およびレイアウトを変更します。クロス集計がデフォルトのビジュアルです。ビジュアルヘドリルダウンすることができます。例えば、年次データ、次に四半期データ、次に月次データを表示できます。

下表に使用可能なビジュアルの説明があります。

ビジュアル	説明
箱ひげ図	範囲全体の一連の値を昇順に表示します。値は、ボックスの中央に配置された中央値と共にパーセンタイルで表されます。
バブル	データを 3 次元で視覚化するために使用します。このグラフは、データに 3 つのデータ・セット (一般的には 2 つ) がある場合に使用されます。
ブレット・グラフ	比較業績を表現するために使用します。単一の基本測定値を使用する横棒グラフであり、業績の質的範囲を示すために、その測定値を 1 つ以上の他の測定値と比較して表示します。例えば、実際の業績と業績目標を表示することができます。
柱グラフ	データを縦棒の形式で表示します。グラフの軸には、さまざまな測定値およびコンテキストが含まれます。
ダッシュボード・フィルター	フィルター基準をダッシュボードに適用するために使用します。
ドット・プロット	丸を使用して目盛り上にプロットされるデータ・ポイントを表示します。このグラフは連続データに使用されます。通常、サイズが中程度のデータ・セットに使用されます。
ジオ・バブル	この図表はジオ・マップとバブル・チャートを組み合わせたものです。データを表示するために、バブルのサイズと色彩強度を、地域の色の塗りつぶしと組み合わせて使用します。

ビジュアル	説明
ジオ・マップ	<p>国、地域、および市区町村の数量データを、色彩強度を変えることによって示します。ユーザーは、さまざまなジオグラフィーに基づいてデータの分析をすることができます。このマップは、ドリルダウンして詳細な分析を表示できます。</p> <p>ジオ・マップを使用するには、API マップ・キーのほか、国、地域、郡または緯度と経度などの地理情報を含むデータ・ソースが必要です。マップには、ツールボックス内の「設定」を選択することによってアクセスできるいくつかの MapMode があります。</p> <p>MapMode では、マップの種類、解像度、および表示される成果物によって違った表示となる様々なマッピング・サービスが使用されます。デフォルトの MapMode は OpenStreetMap です。</p>
ヒート・マップ	<p>表形式のマトリックスとして配置されたセルで構成されます。各セルは、色のグラデーションを変えることによって定量値を表示します。</p>
KPI	<p>データの重要業績評価指標を表示します。このビジュアルにヒストグラムを追加して、KPI の値とともにデータの傾向を見ることができます。KPI を設定して、カウント、合計、平均、最大、または最小の集約を表示することができます。KPI 図表には、色しきい値とグラフ・ヒストグラムを表示するためのオプションがあります。色しきい値は色を値レベルに割り当てることによって適用されます。</p>
折れ線グラフ	<p>直線のセグメントで結ばれた点として情報を表示します。一定の時間間隔でのデータの変動を表します。例えば、財務管理者はこのグラフを使用して、10 年間に従業員に支払われた賃金の傾向を見ることができます。</p>
パレート	<p>棒グラフと折れ線グラフの両方が含まれます。棒グラフの上にある折れ線は累計を示します。</p>
円グラフ	<p>円形のグラフで、複数のセクターに分割されています。グラフの円弧の長さは数量を表します。セグメントを的確に把握するために、グラフを突出させることができます。</p>

ビジュアル	説明
散布図	データは点の集まりまたはクラスター（塊）で表されます。これらの点は、不均等な間隔で表示されます。販売管理者はこのグラフを使用して、さまざまな購買層にわたる販売比率の相関を見ることができます。散布図の傾向線は、時間の経過に伴う製品の販売傾向を示します。
レーダー・チャート	多変量データを 2 次元グラフの形式で表示します。等角のスポークで構成されます。各スポークが 1 つの変数を表します。各カテゴリーは別々の軸上に、中心から外周に向かってプロットされます。
積み上げ棒グラフ	縦棒または横棒を使用して、各種カテゴリー間の比較を表示します。グラフの一方の軸上に値が、もう一方の軸上にカテゴリーがプロットされます。このグラフは水平に積み重ねることができます。販売管理者は、この棒グラフを使用して 5 年間の販売を見ることができます。
積み重ね面グラフ	グラフ上に数量データを表示します。2 つ以上の数量を比較するために使用され、軸と線の間の領域はさまざまな色で強調されます。
サンバースト	この複数レベルの円グラフは、同心円によって階層を表す場合に最適です。最外周の円は、階層の最上位にあるデータを表します。
表	カテゴリー別にグループ化されているデータの要約を示します。これは 2 つの変数の関係を表しています。データは、変数の頻度分布を示す行列の形式で表現されます。
テキストおよびイメージ	ダッシュボード上の重要な要素の説明や、ユーザーが分析を理解するために役立つ情報を追加します。このオプションは「ツールボックス」から選択でき、テキストの形式はテキスト・エディターで変更されます。
ツリー・マップ	ネストされた長方形の形式でデータを表します。小さなスペースに大きなデータを表示する場合に役立ちます。
滝グラフ	初期値に対する一連の正および負の値の影響を表示します。デフォルトでは、負の値は赤色で、正の値は緑色で表示されます。これらの色は変更可能です。
Web ページ	ダッシュボードに HTML コードを組み込むことができます。

ビジュアル	説明
ワード・クラウド	テキスト・データを視覚化するために使用します。語句の文字サイズは、その語句の頻度を表します。意味のあるワード・クラウドを生成するには、入力するテキストに充てん文字が含まれないようにする必要があります。これを使用して、報告書で最も際立った特徴を伝えることができます。また、この報告書では、ユーザーがテキストを簡単に見分けることができます。視覚効果が強く、わかりやすいグラフです。

分布図での作業

データの分析、データ・ポイント間の相関、およびデータ傾向を分布図に表示することができます。選択したディメンションおよび測定値に基づいて、データは集約モードおよびトランザクション・モードで表示されます。

X 軸上で 2 つ以上のディメンションを、Y 軸上で 1 つの測定値を選択し、プロット上の最終レベルまでドリルダウンすると、分析が集約モードで表示されます。Y 軸上で 2 つ以上の測定値を、X 軸上で複数のディメンションを選択し、最低レベル・データまでドリルダウンすると、分析がトランザクション・モードで表示されます。

分布図には、対となる 2 セットのデータ間の相関も表示されます。相関は、弱、中度、および強に分類されます。

下表に、相関カテゴリーとそれに対応する基準を示します。

カテゴリー	基準
弱い	相関の値が -0.3 より大きく、0.3 より小さい場合。
中度の正	相関の値が 0.7 より小さく、0.3 より大きい場合。
中度の負	値が -0.7 より大きく、-0.3 より小さい場合。
強い正	値が 1 より小さく、0.7 より大きい場合。
強い負	値が -1 より大きく、-0.7 より小さい場合。

表の概要

QMF Vision は、表という方法 (クロス集計 ビジュアルとしても知られています) によって追加された報告書作成機能を提供します。クロス集計は、データ・シートに表示される、複数の方法で編成可能な、複雑なデータを集計する場合に役立ちます。クロス集計タブを使用してデータを編成すると、垂直に表示されているデータを水平に表示できます。

このタスクについて

以下の機能をクロス集計ビジュアルで実行できます。

- 「交換」をクリックして、行と列を交換します。
- 「クロス集計」をクリックして、単純集計ビューとクロス集計ビューを切り替えます。
- 「非表示/表示」アイコンをクリックして、列を非表示にするか、表示します。このオプションは、列見出しの上にマウス・カーソルを移動すると表示されます。

「ツールボックス」で使用可能な以下のオプションを選択すると、クロス集計ビジュアルでデータを形式設定することができます。

- 「パンくずリスト」を選択して、列のデータをドリルダウンする際にナビゲーション・パスのパンくずリストを表示します。
- 「小計」を選択して、すべての行の小計を表示します。
- 「総合計」を選択して、すべての列の総合計を表示します。
- 「行番号」を選択して、すべての行の通し番号を表示します。
- 「ストライピングされた行」を選択して、代替行にグレーのストライプを表示します。
- デイメンション、測定値、およびグループの背景色を変更します。
-

クロス集計の Y 軸に複数のデイメンションがある場合は、列を選択して「ドリル」をクリックすると、その列をドリルダウンできます。

•

列を選択して、フォーマット・オプションを適用します。テキストの配置、フォント・サイズ、およびフォントの色を変更できます。

- セル、列、行、および表をパーセンテージとして表示します。
- デイメンションをクリックすると、コンテキストに対して実行できるさまざまなタスクが表示されます。
 - 「ソート」オプションを使用して、コンテキストに条件を適用し、その結果値をクロス集計で確認することができます。値は名前または値でソートできます。
 - 「例外」オプションを使用して、異常値を選択し、カスタム例外を定義することができます。

値によるデータのソート

クロス集計ビジュアルで、測定値のデータは様々な方式および規則を適用してソートできます。

始める前に

クロス集計ビジュアルが照会に適用されていること、および少なくとも 1 つの測定値が X 軸に追加されていることを確認します。

手順

1. 測定値をクリックして「値でソート」を選択します。
2. 「測定」リストから、ソートする測定値を選択します。
3. 「方式」リストから、和、最大、平均などの数学的方式を選択します。
4. 「規則」リストから、ソートする順序を選択します。
5. ソートする最大行数を「上位件数」フィールドに入力します。
6. オプション: 「80/20」を選択すると、上位 80% の結果に寄与しないデータが除去されます。
7. 「完了」をクリックしてください。

名前によるデータのソート

クロス集計ビジュアルで、ディメンションを降順および昇順にソートできます。

始める前に

クロス集計ビジュアルが照会に適用されていること、および少なくとも 1 つのディメンションが X 軸に追加されていることを確認します。

手順

1. 測定値をクリックして「名前でソート」を選択します。
2. 「規則」リストから、ディメンションをソートする順序を選択します。
3. ソートする行数を「上位件数」フィールドに入力します。
4. 「完了」をクリックしてください。

カスタム例外の作成

ユーザーは、クロス集計ビジュアルおよび KPI ビジュアルのダッシュボードの測定値にカスタム例外を定義することができます。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. ダッシュボードを作成します。ダッシュボードの作成について詳しくは、『ダッシュボードの作成』を参照してください。
3. 例外を作成するコンテキストの「シェvron」アイコンをクリックします。
4. 「例外 (Exception)」 > 「自己定義」を選択します。
5. 数学関数を使用して例外基準を入力します。これらの関数について詳しくは、『計算関数』を参照してください。
6. 「完了」をクリックしてください。

アラート基準の定義

アラートは、クロス集計ビジュアルおよび KPI ビジュアルでの自己定義例外について生成されます。

このタスクについて

クロス集計ビジュアルに関連付けられているスケジュールが実行され、例外条件が満たされた場合にアラートを生成します。アラートの詳細は、E メールでユーザーに送信されます。クロス集計におけるカスタム例外の定義については、『カスタム例外の作成』を参照してください。

手順

1. QMF Vision にログインします。
2. 「共有」アイコンをクリックします。
3. 自己定義例外があるクロス集計ビジュアルまたは KPI ビジュアルを持つダッシュボードを選択します。
4. アラートを共有するユーザーまたはグループを入力します。
5. 「共有 (アラートあり)」オプションを選択します。

ビジュアルの形式設定

ビジュアルのルック・アンド・フィールを変更することができます。

始める前に

ビジュアルを変更するためにダッシュボードを編集する必要があります。

手順

1. 「検出」ページで、ツールボックス内の「図表アクション」をクリックし、以下のオプションを選択します。

オプション	説明
データ・グループ化	適用するグループ化のタイプを選択します。
データ・ソート	データをソートする順序を選択します。
データ方向	X 軸の値と Y 軸の値を交換するには、このオプションを選択します。

2. 「検出」ページの「ツールボックス」で、「図表スタイル」をクリックします。
3. ご使用のビジュアルに基づいて、以下のオプションを表示および選択できます。

オプション	説明
X 軸	X 軸にラベルを表示します。
Y 軸	Y 軸にラベルを表示します。
短い数字のフォーマット	値を短縮フォーマットで表示します。例えば、数字 1,000 を 1k として表示できます。
凡例	選択されたコンテキストから値を表示します。最終のビジュアルに表示する凡例を選択できます。
グループ	最高値の 80% を示す値を結合します。残りの領域は、「その他」としてグループ化されます。

オプション	説明
幅	スライダーを移動して、棒グラフの幅を変更します。
高さ	スライダーを移動して、棒グラフの高さを変更します。
テキスト回転	スライダーを移動して、X 軸上のテキストを回転させます。
リンクの入力	KPI を表示するリンクを入力します。
数字フォーマット	数値の形式を表示します。
対話式	データ・ポイントの上にマウス・カーソルを移動したときに値を表示します。このオプションが選択されていない場合、値は直線の上のみ表示することができます。
傾向	図表上のデータの傾向を表示します。
拡大	マウス・カーソルを移動したときに、X 軸データのズームイン・ビューを表示します。ビジュアルで「拡大」オプションを選択していることを確認してください。
ラベル・スタイル	円グラフの各種スライスを表示します。
フォーマット (パーセント)	データをパーセントで表示します。
円内部半径	スライダーを移動して、円グラフの半径を調整します。
値の表示	X 座標の値を表示します。
棒の色	パレート図の棒を表示する色を選択します。
線の色	パレート図の線 (累計) を表示する色を選択します。
順序	データの順序を選択します。
左	スライダーを移動して、ヒート・マップの幅を変更します。
上	スライダーを移動して、ヒート・マップの高さを減らします。
グリッド・サイズ	リストからグリッドのサイズを選択します。
カスタマー	リストからカスタム・マップを選択します。
AU 通知コード	有効なオーストラリア通知コードを入力します。
マップ・タイプ	マップのタイプを選択します。例えば、地域の地形の表示を選択できます。
パンくずリスト	図表にディメンションのドリルダウン・パスを表示する場合に選択します。
参照行の追加	新しい値とバーを比較するための参照行を追加するときにクリックします。

4. 「照会状況の表示」をクリックして、照会の最終更新状況を表示します。

マップの操作

ユーザーは、ジオ・マップとバブル・マップのあるダッシュボードを作成し、適切な方法でデータが表示されるようにそれらをカスタマイズできます。

手順

1. 「検出」 ページでソースを開きます。
2. 「ツールボックス」 を展開して目的のマップを選択します。
3. マップの見出し設定を適用します。詳しくは、 49 ページの『ビジュアルの見出しタイトルを作成』を参照してください。
4. 「図表スタイル」 パネルで、リストからマップ・タイプを選択します。図表スタイルについて詳しくは、『ビジュアルの形式設定』を参照してください。
5. 「グループ・データ制限」 リストで、マップに表示するデータを選択します。

次のタスク

マップ上のデータ・ポイントをダブルクリックすると、ダッシュボードのデータをドリルダウンできます。

第 11 章 ダッシュボード

「ホーム」ページまたは「データ」ページでダッシュボードを作成できます。データを変更しないのであれば、「ホーム」ページで簡単にダッシュボードを表示することができます。一方、「データ」ページからダッシュボードを表示すると、データを操作できます。

このタスクについて

デフォルトでは、QMF Vision はサンプル・ダッシュボード、関連する照会、およびソースを提供します。ユーザーが QMF Vision にログインすると、これらのサンプル・ダッシュボードは「ホーム」ページに表示されます。サンプル・ファイルは `etc/webserver.yml` フォルダーにあります。ユーザーは新規ダッシュボードを作成し、それらをエクスポートし、サンプルとして使用するためのフォルダーに配置することができます。

ダッシュボード・ガバナンス・ナビゲーター

ダッシュボード・ナビゲーターは、「ホーム」ページの上部にあるシェブロン・アイコンをユーザーがクリックしたときに表示されます。ダッシュボード・ナビゲーターは、すべてのダッシュボード、照会、ソース、およびそれらの関連付けのシームレスなビューを提供します。ユーザーが要素を選択すると、その要素に関連付けられている他の要素が強調表示されます。ユーザーは選択された要素をドリルダウンできます。例えば、ユーザーがダッシュボードを選択すると、そのダッシュボードに関連付けられているソース、照会、およびユーザーが強調表示されます。

ダッシュボードを「データ」ページで作成

ダッシュボードを作成する前に、さまざまなデータ・ソースおよび照会を調べたい場合、この方式に従う必要があります。

手順

1. 「データ」ページにナビゲートして、照会またはソースをクリックします。
2. 「ダッシュボードの作成」アイコンをクリックします。 ビジュアルを形式設定するには、コンテキストおよび測定値を追加します。
3. 「完了」をクリックしてください。ダッシュボードが「検出」ページに表示されます。

自動ダッシュボードの生成

ユーザーは、ソースのターゲット・ディメンションまたはターゲット測定値を選択することでダッシュボードを作成できます。この機能を使用すれば、ダッシュボード作成前に照会を作成する必要がなくなります。

始める前に

このタスクについて

手順

1. Rocket Discover にログインして「+ダッシュボード (+DASHBOARD)」をクリックします。
2. 「データ」ページでデータ・ソースを選択し、「追加」をクリックします。
3. 分析ターゲット測定値/ディメンションを選択して「作成」をクリックします。例えば、ユーザーは基本分析に利益幅測定値を選択できます。
4. 「作成」をクリックします。ソースとして利益幅を持つすべてのディメンションに対する分析がダッシュボードに表示されます。

ダッシュボードの編集

サイズの変更、カラー・スキームの変更、および新規ビジュアルのダッシュボードへの追加を行います。

ビジュアルを変更するために、以下の作業を実行できます。

•

ビジュアルを展開します。

•

値および数学関数を選択して計算を追加します。

•

「設定」オプションを使用してビジュアルのプロパティを変更します。

•

「見出しの表示」を選択して、ビジュアルにタイトルを追加します。

•

ビジュアルをコピーします。

- ビジュアルを最新表示して変更を表示します。
- リストからフィルタリング基準を選択して、フィルターをビジュアルに適用します。

特定の日付範囲のデータをドリルダウンして表示するには、「ヒストグラム」オプションを使用します。

•

デフォルトのダッシュボード名は初期の図表見出しから割り当てられます。名前はダッシュボードの左隅のタブに割り当てられている名前を選択および編集することによって変更できます。

- 図表に集約を適用して、平均、カウント、および合計を表示します。

•

色の強度によって値を識別できるように、測定値の色を設定します。図表には、測定値のための色を指定することによって変更できるデフォルトのカラー・スキームが含まれています。開始色は最低値を、終了色は最高値を表します。測定値または列を選択した後、単色ベースまたは 2 色ベースのグラデーションを割り当てることができます。例えば、次に示すように、売上の最小数と最大数を表す色を選択します。デフォルトの色オプションが提供されます。あるいは、開始または終了の色をクリックすることによって、パレットにアクセスできます。色パッチが選択された場合、その色ベースを使用してグラデーションを適用できます。色が選択されると、選択を指定するために 16 進値および色のデータが取り込まれます。

- ビジュアルを使用してドリルダウンするには、時間に特化したフィルターを日付コンテキストに適用します。以下の図表では、「発注日 (Order Date)」コンテキストについて選択される「年」フィルターが表示されます。

ビジュアルの見出しタイトルを作成

意味のある名前をビジュアルに付けることができます。これは、さまざまなビジュアルを「ホーム」ページ上で区別するために役立ちます。

始める前に

ヘッダーを追加および変更するためには、ビジュアルを編集する必要があります。

手順

1. 「検出」ページのツールボックスで、「ヘッダー・スタイル」をクリックします。
2. 「ヘッダーの表示」をクリックします。
3. ビジュアルのタイトルを入力します。
4. 説明ボックスをクリックして、カラー・ピッカーで色を選択します。
5. ヘッダーの水平位置を選択します。
6. ヘッダーの垂直位置を選択します。
7. 「フォント・サイズ」スライダーをドラッグして、フォント・サイズを調整します。
8. 「ヘッダー空間」スライダーをドラッグして、タイトルの下のスペースを調整します。

タスクの結果

次の例は、タイプに基づく商品の単価が入ったダッシュボードです。

次のタスク

図表アクションの適用

データをビジュアルでグループ化する方法を変更し、データをソートし、また軸の方向を変更することができます。

始める前に

ビジュアルを変更するためにダッシュボードを編集する必要があります。

このタスクについて

手順

1. ダッシュボードを編集モードで開きます。
2. ツールボックスを展開して、「設定」アイコンをクリックします。
3. ツールボックスにある「図表アクションの非表示 (**Hide Chart action**)」をクリックして、以下のオプションを選択します。

オプション	説明
データ・グループ化	適用するグループ化のタイプを選択します。
データ・ソート	データをソートする順序を選択します。
データ方向	X 軸の値と Y 軸の値を交換するには、このオプションを選択します。

図表スタイルの適用

ビジュアルに表示するデータをカスタマイズできます。

このタスクについて

手順

1. ダッシュボードを編集モードで開きます。
2. ツールボックスを展開して、「設定」アイコンをクリックします。
3. 「図表スタイル」をクリックします。
4. ご使用のビジュアルに基づいて、以下のオプションを表示および選択できます。

オプション	説明
X 軸	X 軸にラベルを表示します。
Y 軸	Y 軸にラベルを表示します。
短い数字のフォーマット	値を短縮フォーマットで表示します。例えば、数字 1,000 を 1k として表示できます。
凡例	選択されたコンテキストから値を表示します。最終のビジュアルに表示する凡例を選択できます。
グループ	最高値の 80% を示す値を結合します。残りの値は「その他」としてグループ化されます。
幅	スライダーを移動して、棒グラフの幅を変更します。
高さ	スライダーを移動して、棒グラフの高さを変更します。
テキスト回転	スライダーを移動して、X 軸上のテキストを回転させます。
リンクの入力	KPI を表示するリンクを入力します。
数字フォーマット	数値の形式を表示します。

オプション	説明
対話式	データ・ポイントの上にマウス・カーソルを移動したときに値を表示します。このオプションが選択されていない場合、値は直線の上のみ表示することができます。
傾向	図表上のデータの傾向を表示します。
ラベル・スタイル	円グラフの各種スライスを表示します。
フォーマット (パーセント)	データをパーセンテージで表示します。
円内部半径	スライダーを移動して、円グラフの半径を調整します。
値の表示	X 軸の値を表示します。
棒の色	パレート図の棒を表示する色を選択します。
線の色	パレート図の線 (累計) を表示する色を選択します。
順序	データの順序を選択します。
グリッド・サイズ	リストからグリッドのサイズを選択します。
マップ・タイプ	マップのタイプを選択します。例えば、地形を表示するマップを表示できます。
パンくずリスト	図表にディメンションのドリルダウン・パスを表示する場合に選択します。

データ変換

大きなデータを表示するときに要する時間を短縮するには、ダッシュボードで分析および表示する行の数を制限してください。

手順

1. ダッシュボードを編集モードで開きます。
2. ツールボックスを展開して、「設定」アイコンをクリックします。
3. 「データ変換」を展開して、データ制限をリストから選択します。
4. 「照会状況の表示」をクリックして、照会の最終更新状況を表示します。

ダッシュボードの公開

ダッシュボードは URL を使用して公開できます。このような URL は様々なユーザーと共有できます。その場合、そのユーザーに、共有ダッシュボードを表示するための新規システム・ライセンスは不要です。

始める前に

このタスクについて

手順

1. 共有するダッシュボードを「ホーム」ページから開きます。
2. 「検出」ページでドロワー・アイコンをクリックして「公開」を選択します。

「ダッシュボードの公開」ダイアログが表示され、URL を生成したり指定のディメンションで HTML スニペットを作成したりするためのオプションが示されます。

3. URL や、スニペットのディメンションを指定します。
4. URL やスニペットをコピーします。
5. 「完了」をクリックしてください。ダッシュボードが公開済みであるという標識がダッシュボードに含まれます。

次のタスク

ダッシュボードの公開を取り消すには、ダッシュボードを表示しているときに「詳細 (More)」 > 「公開」を選択します。

ダッシュボードの表示

「ホーム」ページにすべてのダッシュボードを表示することができます。

ダッシュボードを共有し、それらにお気に入りのマークを付けることができます。複数のダッシュボードで作業している場合は、ダッシュボードを分類できます。すべてのダッシュボード、共有しているダッシュボード、および最近の作業で使用したダッシュボードを表示することもできます。

ダッシュボードのタグ付け

ダッシュボード関連のダッシュボードを論理グループに編成するには、タグをダッシュボードに追加してください。

始める前に

タグを追加するためには、ダッシュボードの編集許可が必要です。

手順

1. 「ホーム」ページにナビゲートし、「グリッド・ビュー」または「リスト・ビュー」をクリックしてダッシュボードのリストを表示します。
2. タグ付けするダッシュボードをクリックして、タグの値を入力します。例えば、「GO_Sales_Discover」ダッシュボードには販売データが表示されています。そのため、「sales」が関連タグです。

フィルター・コンテナの適用

フィルター・コンテナは、ユーザーがダッシュボードに適用する、さまざまなフィルター基準から構成されます。この機能は、データの制限付きビューを表示するために役立ちます。

このタスクについて

手順

1. フィルターを追加する対象のダッシュボードをクリックします。
2. ツールボックスを展開して、「フィルター」アイコンをクリックします。

3. フィルター・コンテナの「追加」アイコンをクリックします。
4. 「フィールド」リストから、測定値またはディメンションを選択します。
5. 「条件」リストから、比較条件（「NULL」や「より小さい」など）を選択します。
6. フィルターの値を入力します。

フィルターの追加

複数のビジュアルを持つダッシュボードに表示されるデータを制限するには、フィルターを適用してください。

このタスクについて

手順

1. フィルターを適用する対象のダッシュボードを開きます。
2. ツールボックスを展開して、「フィルター」をクリックします。
3. フィールドと条件を選択して、値を入力します。
4. 「プラス」をクリックして、フィルターをダッシュボードに追加します。

注釈をダッシュボードに追加

ダッシュボードが共有されているときは、すべてのユーザーがダッシュボード上のグラフに注釈を付けることができます。この機能により、共同作業を行うユーザーは情報をダッシュボードに追加できます。例えば、複数のユーザーが部門の売上予測に各自のコメントを追加できます。

このタスクについて

手順

1. 注釈を付けるダッシュボードを開きます。
2. 「ツールボックス」を展開して「参照行の追加」を選択します。
3. 参照行に関する以下の情報を入力します。

フィールド	説明
値タイプと現行値 (Value type and Current value)	ドロップダウンから値を選択して、行を開始する値を入力します。
ラベル・テキスト	参照行に表示するテキストを入力します。
カラー・バー (Color bar)	色のグラデーションを選択します。

4. 「ドラッグを有効にする (Enable dragging)」を選択します。
5. 「注釈 (Annotation)」をクリックして、注釈を付ける柱をダブルクリックします。
6. 「注釈 (ANNOTATION)」をクリックして以下の情報を入力します。

オプション	説明
フィールド	説明

オプション	説明
カウント	柱の座標が表示されます。
形状	注釈の形状。ユーザーは柱の一部に円状の注釈を付けることができます。
終端タイプ	注釈のスタイル。注釈の線は点線にすることも直線にすることもできます。
線タイプ	ポインター線のスタイル。
色	注釈線の色。
注記	注釈線に表示される情報。

ビジュアルを関連付ける

ダッシュボード上で 2 つの異なるデータ・ソースによって生成された複数のビジュアルを関連付けることができます。この機能によって、結果データの広範囲にわたる分析が可能になります。さまざまなビジュアルを関連付けることによって、さまざまなパースペクティブでデータを表示できるようになります。

始める前に

2 つの異なるデータ・ソースを持つ 2 つの報告書がダッシュボードにあることを確認します。

手順

1. ダッシュボードを開きます。
2. 「検出」 ページで、ツールボックスにある「関連付け」アイコンをクリックします。
3. ソースおよびフィールドをドロップダウン・リストから選択します。
4. 「フィールドの追加」をクリックし、ステップ 3 を繰り返します。

ダッシュボードのリンク

ダッシュボードには様々なビジュアルを含めることができ、そのいくつかは類似のコンテンツを表す同じデータ・ソースからのものである場合もあります。その結果、1 つのダッシュボードが売上などの領域に固有になり、別のダッシュボードが在庫関連のものになったりすることもあります。ユーザーはそのようなダッシュボードをリンクすることができます。この機能によって、ユーザーはリンクされたダッシュボード間で容易にナビゲートできるダッシュボードの論理グループを作成することができます。

このタスクについて

ユーザーは「ダッシュボード・リンクの表示 (Show Dashboard Links)」 ボタンをクリックして選択されたダッシュボードを追加することによって、「検出」 ページに複数のダッシュボードを一緒に追加できます。これらのダッシュボードはハイパーリンクとして表示されます。戻る矢印をクリックして親ダッシュボードを表示できます。プレゼンテーションで、ユーザーはリンクされたダッシュボードに様々なフィルターを適用することで、同じデータを様々なシナリオで表示できます。これ

らのフィルターはリンクされたダッシュボードにのみ適用され、元のダッシュボードは変更されません。

手順

1. ダッシュボードを選択します。
2. 「ダッシュボード・リンクの表示 (**Show Dashboard Links**)」タブを選択します。
3. 「ダッシュボード・リンクの追加」をクリックして、プラス・アイコンをクリックします。
4. プラス・アイコンをクリックしてダッシュボードを選択します。 選択されたダッシュボードはリンクされたダッシュボードとして表示され、ダッシュボード上でナビゲートできます。

次のタスク

リンクをクリックした後、以前のダッシュボードに戻るための矢印がユーザーに表示されます。

ダッシュボード設定

「検出」ページで、ダッシュボードに対して追加機能を実行できます。

このタスクについて

設定オプションを表示するには、「ツールボックス」にある「設定」アイコンをクリックし、以下のオプションを選択します。

ダッシュボード座標の強調表示 (**Dashboard Coordinate Highlight**)

あるビジュアルで特定の測定値を選択し、それを残りのビジュアルでは異なるコンテキストで表示することができます。例えば、下に示すイメージは、共通のデータ・ソースを持つ 2 つのビジュアルを表示しています。柱グラフには国別の価格が表示され、堆積図表には会社別の品目価格が表示されています。縦棒を国別にドリルダウンできる場合、堆積図表には柱グラフで選択した会社の価格が表示されます。

ダッシュボードを開いたときに照会を最新表示 (**Refresh query when open dashboard**)

この機能を使用すると、「ホーム」ページからダッシュボードを開いたときに、ダッシュボードに関連付けられた照会を実行できます。このオプションにより、ダッシュボードには必ず最新データが表示されます。

自動再生

この機能は、ダッシュボードを再ロードするための 2 つの方法を提供します。

ダッシュボードの再ロード

ダッシュボードが、構成された時間間隔で自動的に更新されます。この機能は、ダッシュボード上の報告書がデータベースから作成される場合に使用可能です。

データのステップスルー (Step through data)

ダッシュボード内の特定のデータ・ソースと列が、構成された時間間隔で自動的に更新されます。

自動ダッシュボードの生成

ユーザーは、ソースのターゲット・ディメンションまたはターゲット測定値を選択することでダッシュボードを作成できます。この機能を使用すれば、ダッシュボード作成前に照会を作成する必要がなくなります。

始める前に

このタスクについて

手順

1. Rocket Discover にログインして「+ダッシュボード (+DASHBOARD)」をクリックします。
2. 「データ」ページでデータ・ソースを選択し、「追加」をクリックします。
3. 分析ターゲット測定値/ディメンションを選択して「作成」をクリックします。例えば、ユーザーは基本分析に利益幅測定値を選択できます。
4. 「作成」をクリックします。ソースとして利益幅を持つすべてのディメンションに対する分析がダッシュボードに表示されます。

第 12 章 プレゼンテーション

ユーザーはダッシュボードをプレゼンテーションに変換することができます。論理的に似たダッシュボードを結合して 1 つのプレゼンテーションを作成することができます。

プレゼンテーションの作成

ユーザーは複数のダッシュボードを組み合わせてダッシュボードを「ホーム」に表示することによってプレゼンテーションを作成できます。

このタスクについて

手順

1. QMF Vision にログインして、「+プレゼンテーション (+PRESENTATION)」をクリックします。
2. 「検出」ページで、「追加」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードをプレゼンテーションに追加します。プレゼンテーションに関連付けられている照会およびダッシュボードも共有されます。
3. 「再生」アイコンをクリックして、プレゼンテーションを表示します。
4. オプション: 「戻る」アイコンをクリックして、ダッシュボードに戻ります。

次のタスク

ユーザーは画面上部のコントロールにアクセスしてプレゼンテーションをズームインまたはズームアウトすることができます。

プレゼンテーションのコピー

ユーザーは「ホーム」および「共有」ページでプレゼンテーションのコピーを作成できます。

始める前に

このタスクについて

手順

1. QMF Vision にログインして、「マイ・プレゼンテーション」をクリックします。
2. 「詳細 (More)」をクリックしてプレゼンテーションを強調表示します。
3. プレゼンテーションを選択して、「コピー」をクリックします。
4. 「完了」を選択します。7. ダッシュボードを別のブラウザで表示するには、コピーした URL を貼り付けます。

第 13 章 共有とコラボレーション

他のユーザーとチャットし、ダッシュボード、ソース、および照会を共有することができます。

共有

「共有」ページを使用して、ファイル、ソース、およびダッシュボードのタイプを検索します。

ユーザーまたはユーザー・グループの許可の割り当て、表示、および変更を行うことができます。

コラボレーション

QMF Vision はユーザーに、連携とコラボレーションをリアルタイムで行う方法を提供します。他のユーザーとのチャット、それらのユーザーの可用性の表示、およびチャット・グループの作成が可能です。

以下の方法で、チャット機能を使用して他のユーザーとダッシュボードを共有できます。

•

「ホーム」ページ: ダッシュボードをチャット・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。

•

「検出」ページ: チャット・ウィンドウの「共有」アイコンをクリックします。作業中のダッシュボードが、相手ユーザーと共有されます。この機能は、ダッシュボード作業のドラフトを仕上げる前に共有したい場合に役立ちます。

関連タスク:

11 ページの『グループの管理』

ユーザーのグループを作成することができます。グループ内の各ユーザーは、グループを表示または編集する許可を持っています。例えば、企業は 2 人の役員を持つことができるため、それらのアカウントに対して 1 つの役員グループを作成できます。デフォルトでは、QMF Vision には「管理者」および「すべてのユーザー」グループがあります。

ダッシュボードの共有

ダッシュボードを他のユーザーと共有でき、また他のユーザーが自分と共有するダッシュボードを表示することができます。

手順

1. 「共有」ページにナビゲートし、共有するダッシュボードを選択します。
2. ダッシュボードを共有したいユーザーまたはグループの名前を入力します。

3. アクセス許可を選択し、「追加」をクリックします。共有されたダッシュボードのサムネールは、ユーザーがサムネールをクリックして、データを表示する許可を持っていることを確認しない限りコンテンツを表示しません。

例

注: デフォルトでは、ユーザーは、共有しているダッシュボードを表示するためにサーバーとの接続を確立する必要はありません。ただし、ユーザーがソースにアクセスするのを制限するために、Rocket Discover はユーザーに、共有しているダッシュボードを表示するための資格情報を使用してサーバーに接続するように促すプロンプトを出します。

「資格情報を使用して共有」をクリックし、自分の TM1 ユーザー名とパスワードを使用して他のユーザーとダッシュボードを共有します。このオプションを選択しない場合、QMF Vision はユーザーに、TM1 ユーザー名とパスワードの指定を促すプロンプトを出します。

次のタスク

また、メニューから「共有」を選択することによって、「検出」ページからダッシュボードを共有することもできます。

チャット機能

ユーザーは QMF Vision 内でチャット機能を使用して共同作業を行うことができます。このアプリケーションにログインするとチャット・オプションが右下隅に表示されます。チャットを使用するには、チャット・アイコンをクリックします。

IBM Connections によるダッシュボードの共有

IBM Connections 内のさまざまなコミュニティとダッシュボードを共有することができます。ダッシュボードは、状況更新、ブックマーク、または「共有」ページおよび「検出」ページからのアイデアとして共有できます。

このタスクについて

ダッシュボードが状況として共有されていると、ダッシュボードに対する更新はコミュニティのメンバーから可視になります。ブックマークはダッシュボードのハイパーリンクです。メンバーはリンクをクリックしてダッシュボードを表示することができます。アイデアは状況に似ていますが、投票機能が追加されています。コミュニティのメンバーは、共有されているダッシュボードに関連付けられたアイデアに「いいね (like)」をしたり、コメントしたりすることができます。

始める前に

IBM Connections を構成する必要があります。詳しくは、『ソーシャル・ネットワークの構成』を参照してください。

手順

1. 共有したいダッシュボードを開きます。

2. 「メニュー」アイコンをクリックし、「ソーシャル・ネットワーク」 > 「**IBM Connections**」を選択します。
3. ダッシュボードを共有するためのモードを選択します。例えば、ダッシュボードをブックマークとして共有することができます。
4. ダッシュボードを共有するコミュニティを選択します。
5. ダッシュボードに関するメッセージを入力し、「**OK**」をクリックします。

第 14 章 スケジューリングの概要

データベース・ソースを使用して作成された照会およびダッシュボードを更新する、複数のスケジュールを作成することができます。

スケジュールは、特定の分、時、日、週、または月に実行するように構成できます。デフォルトでは、スケジュールは毎日深夜に実行されます。スケジュールの実行後に、事前定義された例外がシステムによって検出された場合は、ユーザーに対してアラートが E メールで送信されます。

タスクのスケジュールリング

ある特定の時点でタスクを実行するためのスケジュールを作成できます。スケジュールに障害が発生した場合、ダッシュボードの所有者に E メール通知が送信されません。

手順

1. ツールボックスで「スケジュール」をクリックします。
2. 「スケジュールを有効にする」を選択します。
3. 「最新表示頻度 (**Refresh Frequency**)」ドロップダウン・リストから、以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
分ごと (By Minute)	特定の分にタスクを実行します。
時間ごと	特定の時間にタスクを実行します。
日ごと	毎日、特定の時間にタスクを実行します。
週ごと	毎週、指定された曜日および時刻にタスクを実行します。
月ごと	毎月、指定された日時にタスクを実行します。

4. 「ソーシャル・ネットワーク通知」領域で、通知するソーシャル・ネットワークを選択します。「ソーシャル・ネットワーク通知」領域でオプションが表示されるようにソーシャル・ネットワークを構成する必要があります。

詳しくは、8 ページの『IBM Connections のソーシャル・ネットワークの構成』を参照してください。

第 15 章 IBM Cognos TM1 の操作

IBM Cognos TM1 サーバーに接続し、事前定義されたキューブを使用してダッシュボードを生成することができます。

このタスクについて

キューブ内のデータは QMF Vision ユーザー・インターフェースを通じて変更でき、TM1 サーバー内で更新されます。この機能をライトバックと言います。テキスト値または数値を含むキューブ内のすべてのセルを、TM1 サーバーに書き戻すことができます。セル内の統合された値は太字で表示されます。この値を変更した場合、この値に関連付けられているすべての個々の値は自動的に更新されます。

注: QMF Vision は最新の TM1 REST API を使用して TM1 サーバーに接続します。これには IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 フィックスパック 3 以上が必要です。

デフォルトでは、TM1 REST API は有効化されていません。この API を有効にするには、IBM Cognos TM1 サーバーごとに `tm1s.cfg` ファイルを編集します。

手順

1. IBM Cognos TM1 サーバーを選択して、ホスト、ユーザー名、およびパスワードを入力します。ポート番号のデフォルト値は 5895 です。
2. 「接続」をクリックしてサーバーを選択します。この例では、「Planning Sample」が選択されています。「Planning Sample」サーバーのすべてのキューブが表示されます。
3. キューブを選択し、「ダッシュボードの作成」をクリックします。キューブからのデータが入ったダッシュボードが表示されます。
4. 共有ビュー、専用ビュー、および公開ビューを表示するには、「ビュー」をクリックします。別のビューをクリックして現在のビューを変更することもできます。
5. 「コンテキスト」をクリックしてディメンションおよびその階層を表示します。階層内の要素を検索できます。
6. データが表示される軸を変更するには、「交換」をクリックします。また、行と列のディメンションを交換することによって軸を変更することもできます。
7. 「階層」をクリックすると、行要素の表示がリスト表示と階層表示の間で切り替わります。
8. カラー・ピッカーの下の測定値をドラッグすることによって、グラデーションから色を選択します。
9. 階層を展開するには、「すべて展開」をクリックします。
10. 表示されるデータを最新表示するには、「更新」をクリックします。
11. 空の行および列を表示または非表示にするには、「空データの表示」をクリックして関連するオプションを選択します。

12. 財務ステートメントとしてデータを表示するには、「ツールボックス」の「モード」ドロップダウン・リストから「財務」を選択します。
13. 列を表示または非表示にするには、クロス集計の列見出しの「切り替え」オプションをクリックします。
14. 「ツールボックス」の TI プロセスを選択します。 選択されているプロセスについての TM1 サーバーで定義されている T1 プロセス・パラメーターが表示されます。
15. 「実行」をクリックしてプロセスを実行します。
16. 「完了」をクリックしてください。

要素の検索

ディメンションの複数のサブセットで要素を検索できます。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

手順

1. 「データ」ページをクリックして、TM1 サーバーを選択します。
2. 「表示」をクリックしてサーバーのキューブを表示します。
3. キューブを選択して、「ダッシュボードの作成」をクリックします。
4. 要素を検索するディメンションを展開します。 デフォルト・サブセットが「現行サブセット」ドロップダウン・リストに表示されます。
5. 検索する要素を入力します。

サブセットの検索および保存

ディメンションには複数のサブセットおよび要素があります。ユーザーはディメンションに関するサブセット内で要素を検索し、属性、要素の値、および要素レベルによって検索を絞り込むことができます。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

このタスクについて

検索結果を保存して新規サブセットとして使用できます。検索結果をドラッグして右側のパネルにドロップするか、「コピー」アイコンをクリックして新規サブセットを作成します。右側パネルの「追加」アイコンをクリックして、新規サブセットを名前変更できます。

手順

1. 「データ」ページをクリックして、TM1 サーバーを選択します。
2. 「表示」をクリックしてサーバーのキューブを表示します。
3. キューブを選択して、「ダッシュボードの作成」をクリックします。
4. サブセットを検索するディメンションを展開します。

5. 「サブセット・エディター」をクリックし、要素の名前を入力します。
6. 「保存」をクリックします。

ラベルの適用

ラベルはセルのアルファベット値に適用される別名です。デフォルト・ラベルはキャプションです。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

このタスクについて

手順

1. ラベルを適用するディメンションをクリックします。
2. 「ラベル (LABEL)」タブをクリックします。
3. 適用するラベルを選択します。
4. パネルの外側をクリックしてパネルを閉じます。

カスタム・サブセットの作成

最初のカスタム・サブセットはシステムによって生成され、後続のサブセットはユーザーによって作成されます。QMF Vision で作成されるすべてのカスタム・サブセットは、IBM Cognos TM1 サーバーの公開サブセットに基づいています。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

このタスクについて

手順

1. 動的サブセットを作成する行または列のディメンションをクリックします。
2. 「サブセット・エディター」をクリックします。デフォルト・サブセットが右側のパネルに表示されます。デフォルト・サブセットの名前には、現在のサブセットの名前の後に「新規 (New)」が付いた接頭部が付けられます。
3. オプション: 一部の要素を削除し、現在のサブセットを新規カスタム・サブセットとして保存します。

サブセットへの数学関数の追加

サブセットに数学関数を追加することができます。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

このタスクについて

手順

1. 動的要素を作成する行または列のディメンションをクリックします。
2. 「サブセット (SUBSETS)」タブをクリックします。
3. 「サブセット・エディター」をクリックします。
4. 「サブセット (SUBSETS)」タブをクリックします。
5. サブセットの名前および公式を入力します。
6. 「追加」をクリックします。

要素への数学関数の追加

要素に数学関数を追加することができます。

始める前に

IBM TM1 サーバーに接続していることを確認します。

このタスクについて

手順

1. 動的要素を作成する行または列のディメンションをクリックします。
2. 「サブセット (SUBSETS)」タブをクリックします。
3. 「サブセット・エディター」をクリックします。
4. 「要素」タブをクリックします。
5. 要素の名前および公式を入力します。
6. 「追加」アイコンをクリックします。

基本計算の実行

QMF Vision および IBM Cognos TM1 固有の関数を要素に適用することによって基本的な数値計算を実行できます。

このタスクについて

始める前に

TM1 サーバーに接続していることを確認します。

手順

1. 計算を実行するディメンションをクリックします。
2. 「基本計算 (BASIC CALCULATIONS)」をクリックして基本計算を実行します。
3. 要素の名前を入力します。
4. A および B のドロップダウン・リストから値を選択します。
5. QMF Vision 関数の中から 1 つを選びます。IBM Cognos TM1 関数を選択する場合、ドロップダウン・リストから複数の値を選択できます。

6. 「保存」をクリックします。

高度な計算の実行

多次元式 (MDX) ベースの公式を適用することによって、高度な計算を実行します。

このタスクについて

始める前に

TM1 サーバーに接続していることを確認します。

手順

1. 計算を実行するディメンションをクリックします。
2. 「拡張」をクリックします
3. 要素の名前を入力します。
4. *Function(dimension.element_name)* の形式で関数を入力します。
5. 「保存」をクリックします。

第 16 章 IBM Cognos BI サーバーに接続

ユーザーは、IBM Cognos BI サーバーに接続して、ダッシュボードを作成することができます。

手順

1. IBM Cognos BI サーバーを選択して、サーバー情報、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
2. 「接続」をクリックします。すべてのフォルダーが表示されます。
3. フォルダーにナビゲートして、関連するキューブを選択します。また、「表リスト」検索ボックスでキューブを検索することもできます。
4. 「照会の作成」をクリックします。
5. 必要に応じて照会を変更して、ダッシュボードを作成します。

第 17 章 IBM Connections の構成

ユーザーは IBM Connections (IBM のソーシャル・ネットワーク) を使用して QMF Vision メンバーと共同作業を行うことができます。IBM Connections では、共同作業用のダイアログを使用したり共有ファイルにアクセスしたりできます。QMF Vision プロファイルでは、IBM Web サイトで作成された資格情報が使用されます。該当するユーザーは、この接続が構成された後で IBM Web サイトにおいてダッシュボードを共有できます。

このタスクについて

手順

1. Rocket Discover にログインします。
2. 自分のアバターをクリックして「設定」を選択します。
3. 「API リスト」タブをクリックします。
4. 「IBM 接続 (IBM Connection)」ボックスに、サーバー・ベース URL、クライアント ID、およびクライアント・シークレットの値を入力します。

次のタスク

IBM Connections がソーシャル・ネットワークとして「プロファイル」ページに表示されます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス 3, 6
値によるソート
 クロス集計 41
アプリケーション
 QMF Vision のインストール 3
インストール 3, 4

[カ行]

会社 7
階層 23
概要 1
カテゴリー 26, 34
共有 59
 TM1 ダッシュボード 59
共有、<indexterm>TM1 ダッシュボード
 </indexterm> 60
許可
 設定 7
グループ 11
クロス集計
 追加 32
検出
 編集 19
公開 51
公式 28
コラボレーション 59

[サ行]

サポートされるデータ・ソース 7
自動ダッシュボード 48, 56
集約 33
照会 34
新規ユーザー
 登録 9
図表アクション 49
図表スタイル 50
設定の概説 9
ソース設定 12
操作
 データ 23

[タ行]

タグ付け 52
ダッシュボード 47
 作成 47
 編集 48
データ・ソース
 接続 23
データ・バック 35
データ・ページ 47
テーマ 7
テキスト
 分割 25
特記事項
 法定 75

[ハ行]

パスワード
 更新 11
ビジュアル
 グラフ 37
日付
 分割 25
表
 追加 29
表示
 ダッシュボード 52
フィルター
 追加 30
フォーマット 43
プレゼンテーションのコピー 57
ヘッダー 49
「ホーム」ページ 15

[ヤ行]

ユーザー
 追加 11
用語 17

[ラ行]

ライトバック 65
ライブ照会 35
列の管理 24
列のマージ 25

A

APPEND
 追加 30

B

BI サーバー 71

E

ERD 35

J

JOIN
 追加 31

P

PIVOT
 追加 31

S

SUM 33

T

TM1 サーバー 65
TM1 ラベル 67



プログラム番号: 5650-DB2
5615-DB2
5697-QM2

Printed in Japan

GC43-3484-03



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21